

こくりにゅうだよ



大阪府立池田高等学校2年 浜崎 綾音
「気温差が激しくなったり、体調を崩しやすい季節です。体に気をつけてくださいね。」



9月のイベント情報

※いずれも会場はとよなか国際交流センターです。



外国人のための

日本料理教室

9月27日(木)

10:00~13:00

日本語でコミュニケーションをとりながら、日本の家庭料理を作り交流する。(保育あり)

定員:15人(先着順)

参加費:800円(保育200円/1人)

申込み:9月23日(月)までに来館
または電話・FAX受付。

高校生のための

災害時ボランティア講習会

9月29日(土)

14:00~16:00

10月20日開催の「外国人のための防災フェア」の事前講習で、外国人と防災や災害時の支援について学ぶ。(修了証発行)

定員:高校生30人(先着順)

申込み:9月21日(金)までに来館
または電話・FAX受付。

国流シネマカフェ

「ベッカムに恋して」

9月29日(土)

17:30~20:00

自分のルーツと育った社会の間で板挟みになる移民の子どもたちの物語。

定員:20人(先着順)

申込み:来館または電話・FAX
受付。

ヒンヤリぞくぞく…

世界のお化け屋敷

8月19日(日)、とよなか国際交流センターでは初の「世界のお化け屋敷」を開催しました。いつも、お盆の時期は閑散としているセンターですが、多くの方に足を運んでもらうきっかけになればと思い、企画しました。普段参加している活動や事業の枠を超えてボランティアや学習者・地域の高校生たちと一緒に作りあげたお化け屋敷は、3つのエリアにお化け21体・来場者281名が集まる本格的で大掛かりなものになりました。

館内のお化けについては、日本語交流活動の参加者にアンケートを行い、日本以外の国で有名なお化けを再現しました。驚いたのはほとんどの国のお化けに「髪が長い・細い・色が白い・女性」という共通点があったことです。館内には何体ものお化けがひしめき合い、来場者を出迎えるための練習もバッチリ。

当日はコースの開始時間30分前から来場者でにぎわい、迷路やお化けとの対決を楽しんでいました。コース終了後も、目玉白玉やかき氷などのお菓子を食べながら、日本語ボランティアによる怖〜い絵本の読み聞かせタイムや学習支援「サンプルイス」に参加する子どもたちのダンスの披露もあり、最後まで楽しむ参加者の姿が印象的でした。

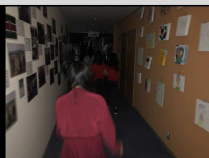
初めての試みとして開催したお化け屋敷は、私たち職員・ボランティアにとっても思い出に残る夏になりました。当日の様子を写真でお伝えします！（お化け屋敷企画担当 安藤・三木）



おやつが目玉白玉…



この先にある
トンネルを
抜けると……



子どもたちのダンスも…



奥に誰がいる……



【報告・フォト】おまつり地球一周クラブ

8月18日（土） 夏休み企画「ドキドキ考古学！」

講師の考古学博士・大庭重信さん（大阪文化財研究所）から、豊中の弥生時代のこと、古墳やマチカネワニ等のお話を聞いた後、市内の遺跡から出土した石器（石庖丁、石鏃^{せきぞく}〔石でつくられたやじり〕）や土器の実物を手に取り観察しました。結晶片岩を割ったものを丁寧に削り磨いていく石庖丁作り体験。参加した19人の子どもたちは集中して作業に没頭していました。いつもは外国文化の体験をする「おまつり地球一周クラブ」ですが、今回は日本の文化や歴史を改めて知り体験するいい機会となりました。

今回の「おまつり地球一周クラブ」は10月27日（土）の予定です。お楽しみに！



豊中市の遺跡から出土した石器や
土器にも触れました
（写真中央は講師の大庭さん）

「ネパールの人身売買サバイバーの当事者団体から学ぶ

—家族、社会からの排除を越えて」田中雅子著／上智大学出版（2017年）



1996年、インド・ムンバイの買春宿からネパール人の少女たち200人ほどが警察に一斉救出されました。その時に救出された少女たちの有志が、人身売買サバイバーの当事者団体「シャクティ・サムハ」（「力をつけたグループ」の意）を1997年に設立。本著は世界で初めて設立されたサバイバー当事者団体の軌跡と、そのメンバーたちのライフストーリーを紹介しています。筆者が20年来築いてきた信頼関係の中で語られたメンバーの葛藤、勇気、希望に満ちた言葉は、読み手にも力を与えてくれます。

今年7月、米国国務省は『人身取引報告書2018』の発行にあわせて「現代の奴隷制度と闘った英雄」として同会の創立メンバーを表彰しています（同会から二人目）。人身売買は途上国だけの問題ではなく、日本の課題でもあります。世界からも注目されている当事者団体の軌跡から、日本社会のあり方も考えることができる一冊です。（協会事務局次長・山本愛）

Youは何しに国流へ？

第11回

センターで活動している人を紹介します☆

とよなか国際交流センターに来るようになったのは、国際交流の会とよなか (TIFA) 主催の「多文化子育てサロン」のクッキングクラスに参加したことがきっかけです。料理が大好きなので参加しました。その時に、日本語交流活動のパンフレットをみつけました。日本語力をより身につけようと思い、月曜日の日本語交流活動に参加しはじめました。

ここでの日本語の勉強方法はとても好きです。学習につかう資料は体系的ですし、英語を話せるボランティアもいるので、レッスンを理解するのにとても助かっています。日本語を学びながら、時々日本の文化も学ぶことがあります。茶道はとても感動的でした。お茶を味わい、点茶を体験しました。日本語交流活動に参加する前は、日本語を使うことに自信がありませんでした。でも、ボランティアの方と一緒にたくさん話したり学んだりするうちに、自信をもって堂々と日

本語を話せるようになりました。

お化け屋敷でのお化け役をやって、インドネシアの有名なお化けを日本で紹介でき、とても幸せな気分になりました（お化け役を演じるのはとても怖かったのですが）。お化け屋敷は、参加した方々すべてが力を発揮し、大成功だったと思います。



マリサ・

セラヴィナさん

過去の「Youは何しに国流へ？」でご紹介した垣花さん、長谷川さん、徳弘さんも、「世界のお化け屋敷」のボランティアとして参加してくださいました！



コラム

イモヂョモ通信 (第1回)

皇甫康子 (ファンボ・カンチャ)

2018年2月号に最終回を迎えた連載「なんじゃ・カンジャ・言わせてもらえば」の執筆者、皇甫康子さんの新しいコラムがスタートします。皇甫さんの想いとメッセージがイモヂョモ（あれこれ）詰まったコラムをどうぞ。

映画「菊とギロチン」(2018年)

1923年、9月1日に発生した関東大震災では、国民の不平不満をそらすために、「朝鮮人が暴動を起こす」「井戸に毒を入れる」などのデマ情報が内務省から警察に通達された。自警団が組織され、多数の朝鮮人や朝鮮人に間違われた地方の日本人、無政府主義の活動家が殺された。

映画「菊とギロチン」は、震災直後の日本の貧しい人たちの様子を力強く描いている。とりわけ、魅力的なのが女相撲の女性たちだ。女相撲は明治10年(1877年)、山形の興行師が「興行女相撲」として考案した。単に、肌をあらわにして相撲を取るという男性目線の興行ではなく、真剣勝負だったのは、映画の場面だけでも感じることができる。小作農に生まれた女性たちの奴隷のような生き方、沖縄や朝鮮と蔑視されることへの抗い。そんな女相撲の女性たちに、アナーキストの活動家たちが絡む。両者の交流が深まるにつれ、生き立ちや貧しい人たちが幸せになれる社会への切望が語られる。その中で、関東大震災の虐殺から逃れた女力士の証言に、中濱鐵を演じる東出昌大が、日本人として泣きながら詫言のシーンがある。胸を打たれる。朝鮮人だと知られた女力士は自警団に捕まり、拷問を受ける。その自警団たちも日露戦争のトラウマを抱えながら、関東大震災の時には虐殺を命令された。木刀で殺した朝鮮人の顔が忘れられず、怯え、暴力に走る。そんな自警団にも中濱鐵は、一緒に平和な世の中を作ろうと呼びかける。

女相撲はそれぞれが様々な事情を抱えながら、旅を続ける。凶作にあえぐ村の雨ごいのために、人間扱いされない女性たちを励ますために、太鼓を鳴らし、民謡を歌って興行を知らせる。自分を殴る男に勝てる力をつけたいと挑む、彼女たちの誇り高い闘いの姿は美しい。チャンゴのリズムが流れる映画の最後に中濱鐵が1926年、堺で死刑執行されたと知らされる。29歳だった。日本を平等な良い国にしたいと考え、行動し、死刑となった日本人がいたことを忘れてはいけない。展開がおもしろく、あつという間の3時間だった。

イベント告知

2018年度 日本語ボランティア養成講座を開催します

今年も「日本語交流活動」に参加する、日本語ボランティアを募集します。当センターではボランティアを希望される方に、ボランティア養成講座(今年は全4回)を受講の上、活動に参加していただいています。

講座の内容は様々ですが、実は日本語指導のノウハウをお伝えするものではありません。外国人のおかれている現状やそれに関わる日本社会の課題、また、ボランティアとして大切にしていきたい視点などについてお伝えしています。「当たり前」とされている事柄についてちがった視点を提供したり、日常生活ではなかなか触れることのないテーマについて学んだりすることで、日本語を「教える／教えられる」という関係を越えた地域の人同士の関係をつなぐ「日本語交流活動」のスタートにしていきたいと思います。

日本語ボランティア養成講座

日時：9月22日(土)・9月29日(土)・10月6日(土)

・10月13日(土) いずれも10:30~12:30

対象：全回参加できる方で、講座終了後ボランティアとして活動できる人

参加費：1,000円

定員：各活動5人程度(活動日は月曜午前・金曜午前・日曜午前、木曜午後)

申込：9月3日(月)9:00より(先着順)

※第3回(10/6)は公開講座「日本“伝統文化”から考える異文化コミュニケーション」です。どなたでもご参加いただけます。

登録グループの活動紹介



No.8 SAとよなか

——インタビュアー：（以下、——）まず活動を始めたきっかけからお聞かせください。

中西：私たちは大阪府がやっていた、シルバーアドバイザー養成講座の国際交流関係の部門を卒業した後、国際交流に関係のある仕事を何かしたい、ボランティアをしたいということで始め、豊中は豊中の人たちで集まり、SAとよなかというグループに参加しました。国際交流以外の分野もありますが、メンバーは56人です。活動は、約30年近いと思います。

——普段はどのような活動をされていますか？

松尾：国際交流に関しては、留学生のホストファミリー、留学生などから母国のお話をお聞きする「お国自慢」と、それから大阪大学の留学生に日本語を指導する教室への参加ですね。

——そのうち国際交流にかかわられているのは？

松尾：国際交流に関する代表の方だけ決めまして、あとはメンバーの皆さんに協力していただくという形を取っております。ですので、国際交流が何名ということはないんです。

——皆さん協力しながらやっているということなんですね。最初にとよなか国際交流センターを知られたきっかけというのはなんだったんでしょう？

松尾：まだ国際交流センターが出来ていない頃から、豊中市の国際交流活動に参加していました。その後、センター設立の際に紹介してもらったことがきっかけです。

上田：私はSAとよなかに入ってから知りました。というのも生活情報センターくらしかで大体メインの会議があったのですが、その向かいに国際交流センターがありましたよね。私は最初から国際交流で活動していたので、いつもお世話になっていました。

——グループの宣伝とかメンバー募集はどのようにされているのですか？

松尾：チラシを作って紹介しております。メンバー募集は、シルバーアドバイザー講座がなくなっていましたので、会則を変更し、今は興味のある方はどなたでも加入していただけます。ただボランティア活動がメインですので、入っていただける方が少なく、ちょっと頭を痛めているというところです。積極的に各グループに声掛けに行っております。

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

——皆さんにとって「国際交流」はどんなものでしょうか？

松尾：私個人で言いますと、子どもを留学させて、皆さんにお世話になったので、私も日本に来ている方をサポートして、うちの子どもがお世話になっている分をお世話したいと思っています。

中西：私は子どもがおりませんので、自分の子ども代わりにホストファミリーとして留学生の面倒を見ています。彼らを自分の子どもと思って付き合ってますし、その人たちの子どもは自分の孫だと思って家族的に付き合ってます。それがすごく楽しみです。

上野：以前、留学生の奥様が来日されたとき、日本語も英語もあまりできなかったためにご近所とゴミ出しのトラブルになってしまい、すごく悲しい思いをして帰国されたことがありました。もしそのことを私たちに留学生が話してくれていれば、何かお手伝いできたのではないかと思います。それ以外にも日常生活における小さなことを話せる機会があることが語学(日本語)を学ぶことと併せて大事なのではないかと感じることも何度かありました。ちょっとした会話の中で、私たちも外国のお話も聞けますし、自分が外国に行って親切にしてもらってうれしかったお礼としてもサポートしていければと思っています。

——最後に皆さんの活動のアピールをお願いします！

松尾：国際交流は敷居が高い、外国語ができないと難しいと思われて敬遠される方もおられるのですが、そんなことはありません。一生懸命コミュニケーションを取ろうとしたり、聞こうとすることで、コミュニケーションが取れて、とても良くなっていけると思います。例えば発音の違いがあったり、言い間違っても聞こうという気持ち、訴える気持ちがあれば通じるので、そんなに難しく考える必要はないと思うんです。まずハートやと思います。気持ちです。

——そういう部分を沢山の人の知ってほしいですね。

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第113号(2018年9月号)

発行元・問い合わせ：(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間：9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/

多言語情報も
配信しています！



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

